

2024年度 認知科学（認知科学と人工知能）の成績結果について

担当：小堀 聡

<成績の概要>

旧カリ「認知科学と人工知能」の前半の「認知科学」部分と新カリ「認知科学」とでは、合併開講として、同じ内容を講義し、また、同じ問題でテストをしましたので、まず、両方を合わせた結果を説明することにします（ここでは、病気等による欠席に伴う追テストの受験者の4名も含めています）。

両科目の受講登録者は合計して115名でしたが、テストを欠席したのは11名でした。この115名の成績分布は以下のとおりであり、テストを受験した人の合格率は71.2%でした。

S(90-100)	9
A(80-89)	28
B(70-79)	20
C(60-69)	17
D(1-59)	30
K(0)	11
合計	115

最高点:100点(1名)

最低点:21点(1名) ※欠席を含まない

平均点:70点

旧カリ「認知科学と人工知能」の受講登録者は6名で、テストの欠席者は2名でした。この6名の成績分布は以下のとおりであり、テストを受験した人での「認知科学」部分の合格率は25.0%でした。ただし、旧カリ「認知科学と人工知能」の成績は、「認知科学」部分と「人工知能」部分の点数を平均して評価しますので、この時点では「認知科学と人工知能」としてはまだ「合格」ではありません。

S(90-100)	0
A(80-89)	0
B(70-79)	1
C(60-69)	0
D(1-59)	3
K(0)	2
	6

最高点:76点(1名)

最低点:21点(1名) ※欠席を含まない

平均点:39点

新カリ「認知科学」の受講登録者は109名で、テストの欠席者は9名でした。この109名の成績分布は以下のとおりであり、テストを受験した人での合格率は73.0%でした。

S(90-100)	9
A(80-89)	28
B(70-79)	19
C(60-69)	17
D(1-59)	27
K(0)	9
	109

最高点:100点(1名)

最低点:28点(1名) ※欠席を含まない

平均点:71点

全体的に合格率も高く、成績は良好ですが、S(90点台)の人が少なかったのは残念です。旧カリ「認知科学と人工知能」の前半の「認知科学」部分については、もう受講者そしてテスト受験者が少ないですが、合格者が1名だけというのは残念な結果でした。

<講評>

テスト問題については、すでに本授業サイトで公開しているので、そちらで確認してください。

まず、採点における基本方針は、テストの冒頭部分にも書いているとおり、漢字で書くべきところを仮名で書いたり、誤字があったりした場合は0点です(1番と2番の場合)。3番については、いくつかの項目に分けて採点しているので、その項目の部分点を0点としました。

また、過去問の演習において、字が汚くて読めないものは取り扱わなかったのと同様、字が汚くて判読不可能と判断したものについても0点としました。残念ながら、そうした答案がいくつか散見されました。これは言うまでもないことですが、レポートや答案は丁寧に書くべきものです。大学生にもなってそんなことを言われるのは恥だと思ふべきです。

各問についてのコメントです。

問1と問2の用語・名称の問題は、過去問と同様の問題ということもあってか、概ねよくできていましたが(問1:平均24点/35点、問2:平均33点/35点)、問1については一部、用語を正しく理解していないと思われる解答もありました。

問3は大変出来が悪かったです(平均12点/30点)。それぞれの用語の持つ基本的な概念を正しい日本語で的確に説明することは難しかったかもしれませんが、それができてこそ、本当の意味で認知科学の分野の内容を理解したことになると言えるでしょう。

たとえば、刺激閾と弁別閾はともに閾値なのですから、まず閾値というものが何かということを踏まえてそれらの違いを説明しなければなりません。また、ウェーバーの法則のことを説明しても、刺激閾と弁別閾について説明したことにはなりません。

以上